

平成30年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員が、ICT活用や主体的・対話的で深い学びの推進等を掲げた本校の学習指導方針(スクールポリシー)のもと、学力スタンダード等を活用して、個人として教科としての授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、生徒の学力向上に努める。	① 思考力・表現力・コミュニケーション力の向上のため、ICT機器を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を主とした互観授業や公開授業・研究授業に取り組む。	授業改善に向けた互観授業や公開授業、研究授業等を年間3回以上取り組んだ教員の割合が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	1月末までに実施した人数(教諭・講師29名) 3回以上 26人(90%) 2回 3人(10%) 1回 0人(0%) 評価:A	教諭・講師29名のうち1月末までに互観授業や公開授業、研究授業等を3回以上実施した人数は26人で90%を超え、PC・タブレット端末等のICT機器を使用する授業やクティブ・ラーニング型授業も少しずつ増えてきた。 次年度も判定基準を継続し、「主体的・対話的で深い学び」になる授業をめざし、生徒の思考力・表現力・コミュニケーション力の育成と学力向上につながる授業改善を進めていきたい。
	② 学力向上を図るために、教科の宿題やレポートの出題方法と回数を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して、家庭等での自学自習する習慣を身に付けさせる。	宿題・レポート・資格取得などの自学自習について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 12月にアンケート調査 A:40% B:50% C:10% D:0% 評価:A・B合わせて90%	生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて90%となり、判定基準の80%を上回った。特にAは40%と中間評価から7ポイントアップした。これは宿題やレポート、資格取得に向けた学習によるものと考えられる。しかし、別の調査では家庭学習の取り組みができていない生徒が1/3程度いるのが現状である。 次年度も判定基準を継続し、基礎学力の定着や資格取得に向け、家庭学習が習慣化できるよう取り組んでいきたい。
	③ 全教員の「お薦めの本」を紹介し、昼食時の「出前図書」、「読書週間」などの読書運動を全校的にに行い、読書の習慣を身に付けさせる。	個人的な読書、授業や課題研究等の学習で、図書館の書籍を A おおいに利用している B ある程度利用している C あまり利用していない D 全く利用していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A:32% B:28% C:19% D:21% A・Bあわせて60%	生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて60%となり、判定基準の50%を上回った。全年生を対象として朝読書を実施したことにより、図書館の利用者数、貸出冊数の増加につながったと考えられる。 次年度も判定基準を継続し、生徒の図書館利用促進及び書籍の貸出し数増加に向け、各教科とも連携をとりながら、継続的に取り組んでいきたい。
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人以上 C 550人以上 D 550人未満	1月末の資格・検定試験合格者数を検証 1月末現在では 988人 評価:A	1月末現在の集計では、資格・検定試験合格者数は988人となり昨年度同時期の909人と比べると合格者数は79人増加し、判定基準であるA評価(800人以上)を達成できた。2学期以降に受験した多くの資格・検定について、工業3学科・クラス担任の連携した受験奨励および補習(朝・昼・放課後・夕方以降)の充実により目標が達成できたと考えられる。 次年度も判定基準を継続し、「資格・検定のすすめ」を活用しながら、より合格者数を増加させたい。
	⑤ ジュニアマイスター顕彰のゴールド特別表彰およびゴールド・シルバー・ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスター顕彰ゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 80人以上 B 65人以上 C 50人以上 D 50人未満	1月の申請者数を検証 今年度認定者数 108人 (ゴールド 57人) (シルバー 51人) 評価:A	1月末現在の集計で、ジュニアマイスター顕彰申請者の延べ人数はゴールド・シルバーの合計が昨年度から22名増加し過去最高の108人でA評価となった。また、「ゴールド特別表彰」についても過去最高の21人と昨年の6名より15人増加した。認定者が増加したのは、より難易度の高い資格や検定に挑戦し、取得・合格した生徒の人数が増加したことが要因と考えられる。 次年度は申請者数の変動を考慮して今年と同じ判定基準を継続するとともに、3年間通してジュニアマイスター顕彰認定を目指し、学校全体でさらに資格・検定取得を奨励していきたい。
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらない D 全く変わらない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A:48% B:48% C:3% D:1% 評価:A・Bあわせて96%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて96%となり、判定基準の90%を上回った。本年度も2年生全員参加のインターンシップを12月に実施した。また、12月の1、2年生全員参加の「地元企業を知る会」では自分の進路に役立ったという生徒は1年生が98%、2年生が93%と好評であった。 次年度も判定基準を継続し、同時にA評価の割合が高くなるよう進路指導課と学年団が協力し、行事や学年ごとで必要とされる進路資料の作成や活用方法を検討しながら計画的に取り組んでいきたい。
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図ると共に、授業でコミュニケーション力を付けさせる工夫を行う。 外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	朝学習や日頃の学習、面接指導などにより、基礎学力やコミュニケーション力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかなかった D 全くつかなかった	3年生を対象に 12月にアンケート調査 A:37% B:53% C:9% D:1% 評価:A・Bあわせて90%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて90%となり、判定基準の80%を上回った。昨年度より4ポイント減少したが、朝学習ではマナトレやSPI演習、基礎学力定着用の問題などに対し各学年とも落ち着いて取り組んだ。今年度も6月から面接指導をスタートさせコミュニケーション力の向上を図った。また進学希望者に対しては、高校の基礎固めとして6月から1月まで毎日科目を決めて補習を実施してきた。 次年度も判定基準を継続し、企業の求める人材について研究し、その力を付けさせる様に努力するとともに、進学希望者に対しては上級学校進学後の学習を見据えて、補習等により学力向上を図りたい。
学校関係者評価委員会の評価		1回目の就職試験における内定率が A 90% B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	3年生を対象に 12月末に調査 1回目の内定率 98% 評価:A	12月までに学校幹旋で1回目の就職試験を98名が受験して96名が内定した。内定率は98%であり判定基準を上回った(1月末現在、就職内定者は学校幹旋が98名、自営が2名、公務員が1名)。求人数は、近年、県内・県外共に増加しており、恵まれた状況である。今年度も地元企業への内定者が多く、地元企業の担い手としての人材を確保することができた。 次年度も判定基準を継続し、従来の指導を継続させるとともに、企業の要望や求める人材の情報を積極的に集め、計画的に対応していきたい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策				・図書館の利用についての取組で、Dの「全く利用していない」の21%を、数パーセントにするような取組を入れたい。 ・資格取得の合格者を増加させる取組について、難易度が高い資格に合格した場合、ボーナスポイントを付け、生徒と先生の両者がやる気を出してくれるような新たな取組と評価方法を検討していきたい。 ・就職試験を受ける会社の情報については、先生方の会社訪問や求人に来校された折に担当者から聞いた内容を、校内LANにおいて先生方全員で共有して生徒の面接指導に活用しているが、次年度は、応募前会社見学で得た生徒からの情報やOBからの情報も共有するようにして、面接指導に活かし、1回目での100%合格を目指したい。 ・離職率を下げるためにミスマッチを起さない取組を進めたい。工場見学と企業理解を深めるよう努力して行きたい。これまでも、ずっと立って仕事をしたり、同じ作業を何百回もする単純労働などは、工場の現場をしっかりと見ないとすぐ辞めてしまう例もあったので、工場見学の回数を増やすようさらに努力して行きたい。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)	
2 心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指し、部活動や生徒会活動の活性化に努めるとともに、規範意識を高めいじめを見逃さない学校づくりに努める。	① 県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位入賞を目指し、高体連表彰取組賞を獲得する。	県高校総体の総合得点が A 75点以上 B 60点以上 C 50点以上 D 50点未満	県高校総体集計結果 76.5点 評価：A	県高校総体の結果は総合得点76.5点で16位である。判定基準のA評価を達成した。この結果は、ヨット部男女の優勝、弓道部男子団体のベスト4、ソフトテニス部男子、剣道部男子、卓球部男子、バスケットボール部のベスト8による得点獲得が大きく貢献した。昨年度の総合得点は70.0点であり、今年は更に得点が上回り、3年連続での取組賞獲得である。次年度も、4年連続での取組賞獲得を目指したい。	
	② 文化部の重複加入を奨励し、各部の取組に、生徒が積極的に活動し、より良い成果を収める。	文化部の活動と成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：46% B：46% C：5% D：3% 評価：A・B合わせて92%	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：47% B：48% C：4% D：1% 評価：A・B合わせて95%	文化部加入者対象アンケートの結果、A・B合わせて92%となっている。前年とほぼ同数の高い結果となっている。今年度は囲碁・将棋部の全国高校総文への出場、美術・デザイン部の全国高校総文への作品の出品、工業のジャパン・マイコンカーラリー出場などの活躍が目立った。9月末に行われた文化祭や高文連各種行事等の活動の場で、より多くの成果が得られた。次年度も判定基準を継続し、文化部活動の積極的な取組を推進していきたい。
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、生徒が自主的に活動する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：67% B：32% C：0% D：1% 評価：A・B合わせて99%	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：67% B：32% C：0% D：1% 評価：A・B合わせて99%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて95%と前年度同様、高い結果となった。学校祭の成功により、高い評価が得られたものと分析している。学年末まで多くの生徒会行事が予定されており、全校生徒が満足できるものとなるよう、今後も生徒会執行部を中心にしっかり取り組んでいきたい。次年度も判定基準を継続し、生徒の自主性を育み、行事への参画意識を高めていきたい。
	④ 規則やマナーを守り、思いやりの心を育むため、生徒への声かけを増やし、生徒との相互理解を深めるとともに、規範意識を向上させる。	本校の教育活動や規範意識向上の取組により、規範意識やいじめ防止の意識が身についたか A 十分身についた B 少し身についた C あまり身につけていない D 全く身につけていない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：48% B：42% C：8% D：2% 評価：A・B合わせて90%	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：48% B：42% C：8% D：2% 評価：A・B合わせて90%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて99%となり、目標の判定基準の85%を上回った。これは日々の「通学自転車の施錠の徹底」や「校内におけるスマートフォン(携帯電話)の使用禁止の徹底」と規範意識週間など様々な取組を通して、生徒の規範意識やいじめ防止の意識が高まったものと考えられる。次年度もこの取組を継続して、より規範意識の高い社会人を育てていきたい。
	⑤ 保健だよりや集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：60% B：38% C：2% D：0% 評価：A・B合わせて98%	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：60% B：38% C：2% D：0% 評価：A・B合わせて98%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて90%となり、判定基準の75%以上を達成してきた。冬期はインフルエンザや感染性胃腸炎等が流行しやすい時期となるため、感染症の予防を中心として、各自が心身の健康管理ができるように、保健だよりや昼食時間帯の放送等を利用して、健康に対する意識を高めていきたい。次年度は、判定基準を80%とし、取組を継続して実施しながら、生徒の心身の健康に対する意識を高めていきたい。
3 社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供やボランティア活動等を積極的にを行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動を推奨する。	地域ボランティア活動や一日一善運動を通して社会貢献の大切さを理解しているか A 十分理解している B ある程度理解している C あまり理解していない D 全く理解していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：48% B：44% C：7% D：1% 評価：A・B合わせて92%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて92%となり、中間評価より1ポイント、昨年より4ポイント上回った。今年度は教室・講義室にエアコンが設置され、次年度以降もこれまで以上に節電への意識を高めると共に、節水・ゴミの分別等、環境保全への取組が必要である。次年度も判定基準を継続し、環境保全・環境美化への取組を保健指導課・生徒会課等と連携しながら進めていきたい。	
	② 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、環境に対する意識の向上を目指す。	環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	職員対象に 12月にアンケート調査 A：14% B：72% C：14% D：0% 評価：A・B合わせて86%	職員対象に 12月にアンケート調査 A：14% B：72% C：14% D：0% 評価：A・B合わせて86%	職員対象のアンケートの結果、A・B合わせて86%となり、中間評価の60%を大きく上回った。作業分担・業務の見直し等を進めてきた結果と考えられる。次年度も判定基準を継続し、校務分掌ごとの業務の重複を点検しながら、業務の平準化を進め、多忙化の改善と効率的な業務のあり方を探ってきたい。
4 教職員が相互に業務を点検し、組織的で効率的な業務のあり方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し、整理に努めることで、多忙化を改善する。	各分掌内の定期的な会議において、主管する行事や業務見直しの協議成果として A 改善を十分行えた。 B 改善のある程度行えた。 C 改善をあまり行えなかった。 D 改善を行えなかった。	職員対象に 12月にアンケート調査 A：14% B：72% C：14% D：0% 評価：A・B合わせて86%	職員対象のアンケートの結果、A・B合わせて86%となり、中間評価の60%を大きく上回った。作業分担・業務の見直し等を進めてきた結果と考えられる。次年度も判定基準を継続し、校務分掌ごとの業務の重複を点検しながら、業務の平準化を進め、多忙化の改善と効率的な業務のあり方を探ってきたい。	
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動について、先生方の異動があつて成績が落ちないか心配していたが昨年度までと同様の成績で、取組賞も取れたのでうれしい。今後も頑張つて欲しい。</li> <li>・スマホについては100%近くの生徒が持っているが、学校の中で使わないようにするのは結構難しいと思う。また、誹謗中傷などの問題に繋がるようなことが心配なので、難しいと思うが登校したら預かるなどすると良いと感じる。</li> <li>・地域でやっている普通救命講習を学校でも実施して行けば良いと思う。</li> <li>・働き方改革の取組の中で、改善しなくてはならないという気持ちになつたということについて、検討・反省・工夫を今後も続けていけば、来年度もよい方向に行くと思う。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動指導は、働き方改革の影響もあり心配したが、何とか3年連続の取組賞を受賞できた。次年度も4年連続の受賞を目指して努力して行きたい。</li> <li>・スマホについて、今年度は校内で使用させない取組を進めた結果、実質ほとんど使用していない状況になっている。隠れてゲームをしている生徒が毎日一人二人見つかっている程度で、SNSによるトラブルは発生していない。次年度は取組をさらに進めて、校内でのスマホ使用者をゼロにしていきたい。</li> <li>・普通救命講習については、先生方は2年に一度実施している。生徒は一年生の2月に保健の授業で応急手当や心肺蘇生について学習している。しかし、一回教えてもなかなか身に付かない事実もあり、2年・3年になると忘れてしまうので、生徒についても定期的に学校行事として普通救命講習を導入できないか検討して行きたい。</li> <li>・働き方の改善については、何かしようという雰囲気にはなりつつあり、若手の先生の中でもまだ物足りないという意見を言う方もいる。また、本当に改善しているのか分からないという先生もいる。次年度は業務の重複を点検し平準化を進め、効率化も図って行きたい。</li> </ul>			